

# 西要寺だより

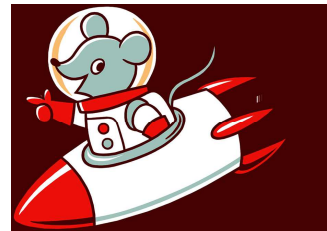
第94号 令和2年1月6日



## ●新年のご挨拶にかえて

どのようなお正月を迎えられましたでしょうか？私の元に届いた年賀状のなかで、お寺ならではのものを紹介します。一般的には「謹賀新年」、「あけましておめでとうございます」とかになるのですが、「歡喜光」「慈光迎春」「明けまして報恩感謝の南無阿弥陀仏」「光寿無量」・・・という言葉が年賀状に書いたりします。正月を迎えるにあたり、阿弥陀さまの私を救うはたらき（光寿無量のはたらき）に感謝するという意味でこのような言葉を使ったりします。お正月がめでたいのは、阿弥陀さまのお陰ということで「歡喜光」。阿弥陀さまのお慈悲のはたらきによってお正月を迎えることができるということで「慈光迎春」。南無阿弥陀仏は報恩感謝の意です。悲しみの時だけでなく、喜びの時においても南無阿弥陀仏を称えます。「明けまして・・・南無阿弥陀仏」というように。

さらに、「阿弥陀さまは年中完全無休」と書かれている方もおられます。正月にあたりあらためて阿弥陀さまのはたらきを感じておられます。年配の先生のものには「ともかくも弥陀にまかせてかれ尾花」という句を借りて私の心境といたします（弥陀＝阿弥陀さまのこと）と書かれていました。「かれ尾花」とは「枯れ尾花」＝「ご自分」ということでしょう。年を重ねていくとますます自分の思い通りに体が動かず、モノを忘れ、目も見えにくくなり…、阿弥陀さまにおまかせすること以外にない、ということでしょう。



昨年にお身内の方を亡くされた方から、「めでたい」という言葉を外し、阿弥陀さまに感謝、故人に感謝を述べられつつ、寂しい正月を迎えていますと書かれている年賀状（？）もいただきました。また、故人に代わって生前中に受けたことに感謝の意を述べておられている、というものもあります。

お寺ならではのではありませんが、毎年ご夫婦（年配の方です）の旅行の写真を載せられている方もおられます。いつまでもご夫婦仲睦まじいな、と微笑ましく感じます。



また、孫の写真とともに「孫が可愛いのではなく、孫だから可愛いのだ」と友が言う、と書かれているものもあります。どう思われますか？

本年も何卒、宜しく願いいたします。

## ●報恩講法要

10月22日（火）23日（水）の両日共に午後2時より報恩講法要をお勤めさせていただきました。午後2時より読経、2時半頃から、途中休憩を入れて、4時過ぎまでご法話でした。読経には、近隣の住職さんにも来ていただき、賑やかで厳かなお勤めでした。ご法話には、浄土真宗本願寺派総合研究所副所長の満井秀城先生によって、わかりやすくユーモアも交えながらお話してくださいました。22日には途中で、近隣の若坊守のコーラスグループの沙羅の人たちが、仏教讃歌や童謡を歌ってくださいました。参詣者の方々も一緒に歌っていただき、和やかなひとときでした。



この度の法要では、西要寺会館において作品展をしました。一ヶ月前の法要案内状での告知と、急なことにも関わらず、多くの方に作品を出してくださいました。有り難うございました。来年も作品展を続けてやっていきたいと思っていますので、また宜しく願いいたします。



今回初めて法要に来られた門徒さんもおられました。法要にはどのように参詣すればいいのかを事細かに聞いて来られました。毎月の定例法座には別段、懇志を持って頂くことはなく、お賽銭でいいのですが、報恩講法要（また、永代経法要）ではご懇志を皆さん持ってきて下さいます。お配りしています懇志袋をお使いください、と説明しました。あと、門徒式章やお念珠、経本を持ってきていただければいいこと、服装は、派手な服装でなければ大丈夫です、とお伝えしました。普段よくお参りに来て頂いている門徒さんには当たり前でも、初めて来られる場合はいろいろと考えられるということを感じました。このように気軽にご相談ください。初めは誰でもわからないものですから。

## ●「お葬儀を考える」法座

ここ近年で葬儀は変わりました。家族葬・一日葬・直葬という言葉も生まれました。同時に従来の葬儀を一般葬と呼ぶようにもなりました。そこで、後悔しない葬儀をするためにあらかじめ考えておくべきことは何か、ということで今回の企画を行いました。西要寺では、毎月22日午後2時より、仏

教の教えを聞くという会である定例会を祖父の代よりお勤めしてきました。11月は上記のような諸事情により「お葬儀を考える」法座し、講師は葬儀アドバイザーの方に来ていただきました。以下のレジユメに従って、話を進められました。

最近の葬儀		葬儀の流れ	
(1) 家族葬 直葬 1日葬		① ご逝去	22日17:00 死亡診断書・届人の印鑑（認め）遺影に使う写真を準備して下さい
(2) 事前に準備する 生前相談 エンディングノートの作成		② 搬送・ご安置	ドライアイス処置 枕飾りの設置
<b>葬儀までの準備</b>		③ 枕経	22日19:00 寺院の都合により通夜と一緒にされる場合がございます
(1) 喪主の決定		④ 納棺	23日15:00 お棺に入れられる副葬品をご用意して下さい 注意 金属 プラスチック ガラス 陶器 密物 は火葬炉の破壊原因となりますので入れないで下さい
(2) 葬儀社・式場(葬儀をする場所)		献上品の締め切り(供花 盛籠)	23日15:00 通夜料理 葬儀・告別式の法要料理の予算とおおよその数を決めて下さい
(3) 病院から搬送先		⑤ 通夜式	23日19:00 ご親族は30分前にお集まり下さい 式次第の説明を行います
(4) 遺影に使う写真		⑥ 通夜ぶるまい	食事が終わりましたら 随時 解散となります
(5) 故人の本籍地		⑦ 葬儀・告別式	24日10:30 ご親族は30分前にお集まり下さい 式次第の説明を行います
<b>葬儀の費用</b>		⑧ 出棺	24日11:30 尼崎市立弥生ヶ丘斎場 (尼崎市弥生ヶ丘1-1)
(1) 葬儀関係 (基本セット料金)		⑨ 精進上げ	式場に戻ります
(2) 立替(実費)関係 (接待費)		⑩ お骨上げ	24日14:30 お骨上げ時間の30~40分前に出発 係りが詳しい時間をお伝えします
(3) 宗教者関係 (寺院御布施)		⑪ 還骨・初七日法要	
		終了	24日16:00 終了予定の時刻ですが 火葬場 交通事情 寺院の作法により 伝えました時間とは異なる場合がございます おおよその目安として参考して下さい



葬儀の金額を抑えようと家族葬を選択しても、一般葬とはそんなに金額は変わらないということです。要は大半を占める祭壇の値段は変わらないということです。事前にエンディングノートを作成している必要がある、ということです。あらゆることを有事の

前に考えてプランニングをしていくことが大切です。いざという時に冷静な判断が出来なくなり、葬儀社任せになると後で請求書が来た時にびっくりするとのことです。わからないことがあれば、西要寺まで何でも聞いてください。

### ●法事等に使用される椅子を貸し出します

法事を家でなされる時に、椅子があればいいのに、と思われたことはありませんか？西要寺の本堂や会館で使用している椅子を使っただけでもいいので気軽にお申し出ください。もちろん無料です。ただし、お寺まで取りに来て頂いて、終わり次第返していただくことが条件です。西要寺で法要等の行事をする場合は、椅子が必要なので、行事までに返していただくようお願いいたします。

### ●お仏壇の移動

家の建て替え等で引っ越しをされる場合は、お仏壇の移動をします。お仏壇を移動する前と後でお勤めをしないといけません。家具のようにお仏壇を扱うのではなく、仏様に今から移動させていただきますという「遷仏（せんぶつ）法要」、移動させていただきましたという「入仏法要」をしないといけません。浄土真宗においては、「お性根抜き」とか「魂入れ」という意味ではなく、ご挨拶の意味でお勤めをいたします。また、移動の仕方は、仏壇屋さんにお問い合わせすれば、仏具の置く場所とかもすべてやっただきるので非常に安心かと思えます。家の方で移動をなさる場合は、仏具の置く場所がわからないというトラブルを防ぐために、移動する前に仏壇の写真を撮っておくと便利です。詳細につきましては、西要寺まで気軽にお問い合わせください。

### ●2月の定例法座について

西要寺では毎月22日に法座をしております。午後2時に開座、参詣者の皆さまと一緒に読経をし、2時半頃から講師の先生による仏教のお話を聞きます。世間話から始まって仏教の話につながっていくのですが、わかりやすく、たまに笑いを交ぜながらのお話です。気軽にご参加（参詣）ください。

そこで、今年2月22日の定例法座は、西要寺門徒追悼法要とします。近年、家族葬が増えましたので、大変お世話になった方の葬儀に行けなくて、最期のお別れが出来なかった、と言われる方が多いので、追悼法要をして参詣者の皆さまとともに、故人をお偲びしようと思えます。追悼法要当日には、最初に、近年亡くなったご門徒さんのお名前を読み上げたいと思えますが、読み上げてくださると申し込みされる門徒さんだけにしたいと思えますので、別紙の《2月定例法座について》という案内状にある申し込み欄に、故人の名前と亡くなられた年月日、申込者のお名前などを書いて提出してください。なお、近年というのは、あえてどこまでかは設定しませんので、皆さまで自由に判断くださいということです。詳細につきましては、西要寺までお問い合わせください。よろしくお願いたします。